

マレーシア・サラワク大学での Community Medicine & Public Health 実習 2011.1.6～2011.2.3

私は医学科5年次1月度の選択実習で、大阪大学医学部の学生としては初めてマレーシア・サラワク大学に派遣して頂きました。ボルネオ島のシブという小さな町で Community Medicine と Public Health の実習を約1か月してまいりました。このような貴重な経験を与えてくださった教育センターの和佐先生、馬場先生、そして奨学金を支援していただいた岸本忠三先生にこの場を借りて深く感謝いたします。

今回の活動は大きく5つに分けられます。

1 . Problem Based Learning

目的：重要なトピックについての必要な知識を、学生主導で網羅的に調べ共有する。

内容：具体的には、サラワク州で非常にコモンな問題である、食中毒、鼻咽頭癌、労働衛生がトピックであった。これらについて、トリガーと呼ばれる問題提起の文章を読んだ後、全員でその問題について知っておくべきと思われる内容を、網羅的に挙げていった。それらについて約1週間かけて皆が分担して調べ上げた後、その知識を持ち寄り、ディスカッションという形で発表した。司会進行も含めて全て学生のみで行った。講師はディスカッションの最後に、そのトピックについて見落とされている知識や視点を紹介した。

成果・感想：実際に問題となっている事柄である、という前提から始まる Problem Based Learning は、少なくともまずその問題に取り組むインセンティブを持ち上げる。さらに、その問題についてクラスメイト全員の視点から網羅的に取り組むことで、自分一人では気づかないであろう新たな問題点に出会うことができる。さらにその視点は、実際に患者さんに質問されうる内容であるため、あらかじめ知識として調べておくことは非常に有用である。また、すべての過程を学生主体で行うため、全体での議論の場に慣れるという利点もあった。

2 . Lecture

目的：公衆衛生および地域医療において必要な知識や考え方を、講師が主体的に提供する。

内容：Evidence Based Public Health、Global Positioning System、Geographical Information System、Health Informatics、Outbreak Informatics、Pediatrics、Statistics など。

成果・感想：講義で提供される内容は、阪大の公衆衛生のそれが学問的であるのに比べて、多分に実用的であった。実際に地域のクリニックで医師としての職務を果たす上で、どのような視点が重要で、どのようなシステムが有用であるかという内容を学ぶことができた。

3 . Clinic

目的：地域のプライマリケアを行っているクリニックにおいて、その仕事の実際を実習する。

内容：Family Planning Office における避妊指導、Immunization office における予防接種、糖尿病・高血圧外来、妊婦健診、乳幼児健診、結核病棟など。

成果・感想：日本の状況と異なっていた点は、早婚多産傾向であること、そのために避妊指導や若い母親達への教育、さらに乳幼児健診がクリニックにおいてかなり重要なウェイトを占めてい

ること、およびマラリアやデング熱が珍しくないことなどであった。一方、発展途上国における地域医療と言えど日本と同じであったのは、疾病構造が生活習慣病へとシフトしていること、児童虐待や子供の体力低下など社会構造の問題、医療機関へのアクセスの不便さなどであった。特にアクセスの問題については、そのために日本よりも医療オンラインネットワークの普及がより必要とされていることに気付かされた。

4 . Intervention

目的：地域の住人に対して、健康増進のための啓蒙活動を行う。

内容：Iban と呼ばれる人達の住む Longhouse を泊りがけで訪問し、お祭りのような形で彼らと交流しながら、禁煙指導、生活習慣指導を行った。

成果・感想：まずはサラワク地方の先住民族である Iban の人達の有名な Longhouse を訪れることができたのは光栄であった。その Longhouse に泊まり込んだ日本人は我々が初めてであつたらしく、大変歓迎された。Iban は首狩りと大きなピアスの習慣のある民族として知られているが、それは日本人がもはや切腹やちょんまげ結いをしていないのと同様で、過去のものであつた。サラワク地方で得られる上質な木材を使った高床式の長屋は、電気もガスも設備されており、近代的で快適なものであつた。また彼らは普段は町で一般的な仕事を営んでおり、現金収入も多く、ごく普通の市民と変わらなかった。そのような人達に、自分達が作ったポスターやレクチャー、出し物などで知識を広め、身体測定や血圧測定などをして彼らの健康の保持、増進に関わっていく経験は、大変得難いもので貴重であつた。

5 . Inspection

目的：地域の住人に提供されている飲食料品の品質を調査する。

内容：現地の厚生省の役人とともに飲食店やスーパーマーケットを訪れ、衛生状態、品質などについての査察を行った。また、浄水場や飲料水工場を訪問した。

成果・感想：実際に厚生省がどのような基準で施設や食料品の品質を評価しているのかを体験できた。ほとんどの施設、食品は基準をクリアできていた。また、人々の口に入る水を提供する浄水場や飲料水工場が、どのようなシステムで運営されているかを実際に見てくることができたのは、住人の衛生状態を把握するうえで、有益なことであつたと思う。

今後の抱負：地域社会の人々の健康を司る医師は、住人を取り巻くさまざまな環境について熟知している必要があると思われた。そうすることで、人々に起こっている問題、起こりうる問題に対してより適切に対処することができる。また、健康に関する知識を司る立場として、人々の疑問に応え、注意喚起を行うことができるということも、医師としては必要であると感じられた。また、国や地域によって抱えている問題が劇的に違うわけではなく、地域医療や国際保健といえど、特別なことをするわけではないとも思われた。やはり生活習慣病、うつ病、子供の養育環境、労働環境などが問題となってくるのであつて、まずは日本においてこれらの問題にきちんと向き合えるようになることが必要であると思われた。